

## 平成28年度第2回 鹿児島市清掃事業審議会 概要

### 1 開催日時

平成28年5月10日（火）10:30～11:51

### 2 開催場所

東別館 特別中会議室

### 3 出席者

#### (1) 審議会委員（14名）

赤崎委員(副会長)、赤星委員、有馬委員、井上委員(会長)、岩元委員、榎本委員、大前委員、鬼塚委員、瀬戸山委員、藤安委員、三原委員、向段委員、柳井田委員、吉見委員

#### (2) 事務局（9名）

環境局長、資源循環部長、資源政策課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、南部清掃工場長、資源政策課管理調整係長、同課ごみ減量推進係長

### 4 次第

#### (1) 議事

##### ① 報告事項

ア 熊本地震への災害派遣の概要について

イ 平成27年度のごみ・資源物量について

##### ② 前回の質問に対する調査・確認事項について

##### ③ 諮問事項

家庭ごみの有料化（一般廃棄物処理手数料の徴収）について（5回目）

#### (2) その他

### 5 報告事項及び審議事項の概要

#### (1) 議事

##### ① 報告事項

ア 熊本地震への災害派遣の概要について

イ 平成27年度のごみ・資源物量について

発言者	発言内容
委員	資料3ページをみると、粗大ごみについては、急に増えたようだが、有料化を議論するなかで、これから何か考察できることがあるか。
事務局	平成23年10月から粗大ごみを有料化した但、最初の年である24年度は急激に排出量が減少したが、現段階では、粗大ごみの有料化以前に近づいてきており、一時的には減ったが、年を経るにつれてごみ量が戻りつつあるといえる。

発言者	発言内容
委員	<p>一つの原因としては、有料化に慣れてしまったということだと思います。有料化をする際に、どれだけの負担感を与えるのかというのは大きな課題で、ひょっとしたら、粗大ごみの有料化は、負担感が小さすぎるのではないかと思った。まだ一年で判断するのは難しいとは思いますが、そのあたりを聞きたい。</p>
事務局	<p>粗大ごみについては、戸別収集の場合は有料化しているが、直接搬入の場合は、家庭ごみであれば100キロ以下は無料で引き取っている。直接搬入が結構増えている状況なので、市民の間に浸透してきたのではないかと考えている。</p>
委員	<p>今回の（ごみ・資源物の排出量の）数字については、全体的に減少に転じていて、今までとは違った傾向が見られる。今までと比べると、減少するものが少しずつ目立っており、この傾向が今後も続くのか続かないのか、これが問題になるのではないかと思う。</p> <p>鹿児島市全体のごみ総量をいかに抑制していくかということと、市民一人ひとりのごみの排出量をいかに抑制していくかということ、この二つの視点が重要だ。ごみの総量については、少し減りつつあり、これは統計なので一年では分からないが、人口減が影響してきている可能性はあると思う。</p> <p>一方で気になるのが、鹿児島市が環境リーディングシティを目指すといっておきながら、一人当たりのごみの排出量は、中核市47市中41位という不名誉な順位になっている。やはり、環境リーディングシティとして、あそこの都市は素晴らしいといわれるためには、市民一人ひとりがごみの排出量を減らすこと、しかも他都市に比べてやはり優れているということが必要だが、それは見えないと思う。</p>
委員	<p>ごみの量だけの議論では、本質に近づきにくい。我々が議論するのは、あくまでごみ処理費ということを出して、それがどれくらい市民にとって納得のいくものであるかということから出発していく必要がある。ごみの量を減らすというよりも、それに係る税金を減らすということ。議論の中に経済性を盛り込む視点が必要だ。</p>

② 前回の質問に対する調査・確認事項について

発言者	発言内容
委員	<p>資料4ページの「その他」に記載されていることは、当然、鹿児島市でも同じ課題が出てくるのではないかということは想像される。</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>有料化を導入すると決めた場合、職員の体制がどのようになるのか。事務量の増大だったり、作業費用の見積もりが難しかったり、消費税増税時の手数料の改定が煩雑であったり、有料化を導入するにあたって、市がどのような体制をとろうと考えているのかが、この資料のなかでは出てこないと思った。</p> <p>資料6 ページでは、収入が減少しているということだが、これだけの収入があれば、ごみ袋を有料化しても負担を感じない方もいるかもしれないが、母子、父子、生活保護世帯が、鹿児島市は、どれだけの割合を占め、その収入がどれくらいなのか。</p> <p>資料7 ページでは、やはり、高齢者単身世帯が増加しているのだと分かった。平成22年度までしか載っていないが、27年度は国勢調査もあったので、この5年間でどれだけ高齢者の単身世帯が増えているのか。鹿児島市は市民のひろばを配布しているが、高齢者の方々が、どれだけ議論等をしていただいているのかは分からないので、周知徹底がとても必要だと感じた。</p> <p>職員の体制については、有料化したときにどのように事務量が増えるかという詳細を見積もっているわけではない。有料化して、ごみ袋を準備するなどの事務手続きは煩雑にはなるが、職員が増えてまでするようなことはないのではないかなと思う。</p> <p>ただし、高齢者世帯への市民サービスの還元などを考えていくと、それらにあてる人数を考えなければならないので、そうすると仮に有料化した場合、その有料化した財源をもって手厚くしていかなければならないと考える。</p>
委員	<p>資料4 ページの有料化導入前のごみ量に戻ったかというところで、「戻りつつはないが、近年横ばい状態」と記載しているが、何年くらいでこういう状態になったのか。</p> <p>また、住民対応の負担増加については、3割くらいの都市が難しいと考えているようだが、鹿児島市も、有料化する場合の住民対応の仕方というのは考えておいてほしい。制度の内容を市民に十分理解してもらうことが難しく、その周知が課題となっているようなので、そこらへんもクリアしないとなかなか前に進まないのではと思う。</p>
事務局	<p>だいたい10年程度で戻りつつある・横ばい状態になっている市があるようだ。</p>
委員	<p>資料6 ページの家計収入を見ると、有料化をしても大丈夫ではないかというふうに見えてしまうと思った。実際には色々な所得者層がい</p>

発言者	発言内容
委員	<p>るので、その中身を見ないと危険な数字だ。これだけの数字を見るのではなくて、中身を見て影響を考える必要がある。</p> <p>私は、この数字を見て、収入が減っていて、それに伴って支出も減っているのではないかと考えたが。</p>
委員	<p>一月に約47万円程度の収入があれば、有料化しても大丈夫ではないかという論点になるのが危険だと思う。</p>
委員	<p>この数字が鹿児島市の平均と見られるのは危惧するところで、母子、父子、生活保護世帯がどれくらいの割合であるのかと、全体的な目で見ないと、ごみ有料化について十分な理解が得られないと思う。</p>
委員	<p>平均値を取るとというのは、あまり統計学的に意味がなく、おそらく中位層をとっていることになる。</p>
委員	<p>今の時代、世帯収入が二極化している。平均値だけを見て進めていくのは問題で、もっと細かいところまで見ていかなければならないというのは間違いない。</p> <p>この議論の中でも、高齢者や低所得者世帯に対して、配慮が必要だという議論は済んだと思うので、そこを明確な方法を打ち出さなければ、すぐに有料化ということにはならない。</p>

### ③ 諮問事項

#### 家庭ごみの有料化（一般廃棄物処理手数料の徴収）について（5回目）

発言者	発言内容
会長	<p>家庭ごみの有料化については、これまでの議論の中でごみ量を減らすという観点からは有効な手段であることは皆様もご理解いただけていると考えている。</p> <p>また、先ほど事務局の方からも説明があったが、計画収集（家庭ごみ）に係る市民1人1日当たりのごみ量は、中核市47市中41位と決して良いと言える状況ではない。</p> <p>しかしながら、人口も減少傾向に転じたことで、ごみ総量は今後減っていくことが考えられることや、経済情勢が思うように好転しない鹿児島市の現状を踏まえると、今以上に市民に負担を強いる政策を、すぐ実行すべきであるとは言えないのではないかと考えている。</p> <p>そこで、今回の答申では、家庭ごみの有料化はごみ減量施策としては有効ではあるが、今後の経済状況やごみ減量の実績を注視していく</p>

発言者	発言内容
	<p>とともに、市に住民説明会などの有料化によらないごみ減量施策について今まで以上の取り組みを行なった上で、どうしてもごみ減量が進まないと判断される場合は実施すべきであるとの意見を付して行なうことがいいのではないかと思うがいかがか。</p> <p>27年度までの統計表を見ている限りは、ごみ量を減らしていかなければいけないという議論だったが、様々なデータが出てくると、そう簡単ではなく、問題が少し複雑化したように思う。</p> <p>一方で、九州各地、または中核市など、多くの都市が、有料化をしながら様々なごみ収集に対する市民サービスを展開しており、鹿児島市もその問題を避けて通れないだろう。</p> <p>これ以上、ごみ処理費に対して税金を投入することが難しいという状況にあると判断できるし、多様化した市民サービスの向上のためには、ある程度の負担をしながら、必要なところに手立てを行っていかなければならないと思う。</p> <p>ごみ有料化の実施は必要であろうけど、導入時期というのは慎重に対応してほしいというまとめではないだろうか。</p>
委員	<p>町内会でも、会費を100円上げるだけでも相当苦勞する。そういう経済状況に今ある。そのことを考えると、市民の半分以上は、有料化に反対すると思う。</p>
委員	<p>ごみの排出量は、いろんな要因で変化するというのはあるが、今の状況を考えたときに大変難しいのではないかと思う。しかし、長期的に見たときには、ごみの排出量を個人レベルで減らしていかなければならないというのも、重要なことだ。そういうことで、有料化というの、残された方法のひとつだと認識している。</p> <p>鹿児島市のごみ処理に対するあり方というのを考えたときに、やはり一人あたりのごみ排出量を検証させて、他都市に恥じないレベルに持っていくための対策というのは、かなり時間がかかることだと思う。これは、ある意味ライフスタイルを変えていくことにもなる。市民にもコスト意識を持ってもらいたいので、そういう意味では有料化を議論していきたいし、コスト意識を高めるためにも、有料化は一つの方法だと思う。</p> <p>コストを下げるために、いかに一人あたりのごみの排出量を下げることかという方法についても市民に周知しなければならないし、市民自身も考えていかなければならない。</p> <p>有料化については、有力な方法として検討はしておくべきだと思うが、緊急な実施が必要であるかどうかの判断は、審議会としては難しいところだ。経済的には、かなり厳しい状態のなかで、配慮すべき対</p>

発言者	発言内容
委員	<p>象というものを慎重に考えながら、導入する場合は慎重に行ってもらおう。</p> <p>市民が払う税金に対して、市がもっとコスト意識を持っていただきたい。市民と市の両方が、負担を分かち合わなければならないと思う。</p> <p>私は、市のコスト意識の視点の情報提供が、不足しているように思う。南部清掃工場でバイオガス施設を設置するし、北部清掃工場では発電をしているが、明らかに何億円の収益が出ている。清掃行政では、コストだけではなく収益がある。この収益行動を検討すると、ごみを減らさない方がいいという結論になりかねないが。</p> <p>清掃行政は、コストだけではなく、収益をあげられる部門であることを再認識してコストバランスの情報を市民に対して提供していくことが大切だ。</p>
委員	<p>収益をあげるということになると、ごみを増やしてエネルギーに変えて売ればいいということにもなるが、地球環境について考えると、ごみは減らさないといけないので、収入も減らざるを得ないと思う。</p> <p>しかし、今まで無駄にしていたものを、バイオガスにすることで市の収入が増え、市民サービスに還元されるということになる。コスト意識を高めるというのは、今まで通りのやり方ではなく、効率的な方法でごみ処理を行っていくことだと思う。</p>
会長	<p>答申案を出すために、有料化を実施するとした場合の「対象となるごみ」等についても参考意見として送付したいと思うので、ただいまから項目ごとにまとめていきたい。</p>
会長	<p>「対象となるごみ」</p> <p>対象となるごみの種類については、もやせるごみ、もやせないごみを有料化し、資源物は無料とするとの意見がもっとも多かった。</p> <p>資源物を含め有料化することとなると、やはり経済的なインセンティブが働かなくなる恐れもあることから、対象となるごみは、もやせるごみともやせないごみの2種類が良いのではないかと考えるのがか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
会長	<p>「料金体系」</p> <p>料金体系については、単純で分かりやすいことや、市側の事務量等</p>

発言者	発言内容
全委員	<p>を考慮すると、排出量単純比例型がいいとの意見が大半を占めているため、排出量単純比例型がよいのではないかと考えるがいかがか。</p> <p>(異議なし)</p>
会長	<p>「料金水準」</p> <p>料金水準については、0.5円から1円の間で様々な意見があった。料金を上げればごみ排出量は抑制されることとなり、効果は上がるが、市民の負担は大きくなる。</p> <p>これについては、今回の答申では明確な値を出すことはせず、市側が実施を行なう方向性を示されるときに、その時の経済情勢などを含めて検討したいと考えるがいかがか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
会長	<p>「手数料の徴収方法と種類」</p> <p>手数料の徴収方法は指定袋制で販売時に手数料を上乗せして徴収する方法で全員一致しているので、そのように答申に盛り込みたいと考えている。</p> <p>その際の袋の種類については、4種類、5種類との意見が多かったようだが、管理や取扱店の煩雑さを考え4種類が妥当であると考えているがいかがか。</p> <p>なお、この種類については、市民からの要望が多い場合は種類を増やすなどの柔軟な対応も考えられる。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
会長	<p>「手数料の減免や有料化の対象外とすべきもの」</p> <p>まず、減免対象者については、生活保護世帯、有料化の対象外とする品目として、おむつやストーマ、腹膜透析等を利用する世帯の出す廃棄物、町内会等の実施のボランティア清掃ごみ、剪定枝という意見があった。</p> <p>減免の対象となる生活保護世帯については全てを無料にするのではなく、一定量無料とする措置をとることが必要になると考える。また対象外とする品目については、そのみの袋に入れて品目を特定できるような方法をとる方法が必要と考えるがいかがか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>

発言者	発言内容
会長	<p>「併用施策」</p> <p>併用施策については、減量方法の啓発、違反ごみ対策、収集サービスの拡充、補助金の拡充、ごみステーションの改善など、様々なものを実施する必要がある。</p> <p>この施策については、有料化の手数料収入をどのように有効利用していくかを、市民の皆様が目で見える形で実施すべきであると考えている。</p> <p>なお、現在どのような施策が出来るかは、実施時期や料金水準がはっきりとしていない現時点では、具体的に例示することはなかなか難しいと思うが、あまりお金を必要とせず実施できる施策、例えば広報や住民説明会などについては、実施を検討していただくよう盛り込みたいと考えるがいかがか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p> <p>「市民の合意形成」</p> <p>メディアを使った広報・啓発など不特定多数を対象にした周知方法や、町内会などを対象にした住民説明会などをきめ細かに行なうことなどが意見としてあったが、これについては、周知パンフレットの全戸配布、住民説明会の実施などをきめ細やかに進んでいくことを盛り込みたいと考えるがいかがか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
委員	<p>新聞にごみの有料化について記事になっていたが、市民の方にも有料化になるという危機感があると思うし、ここで議論をしていることも少し浸透していると思う。こういう場で有料化の議論をしていることをもっとアピールして、市民も一生懸命考えてくださいということを伝えられるといいと思う。</p>
会長	<p>本日、用意された議事事項は以上だが、ここで委員の皆様にお諮りしたいと思う。</p> <p>本日の審議において、家庭ごみ有料化について審議会としての一定の方向性が定まった訳だが、答申案について、私の方で取りまとめ、次回の審議会までの間に事前にお示しし、審議会でも内容を精査し、答申としてまとめていくこととしたいと考えるがよろしいか。</p>
委員	<p>手数料の使途については、答申に入れた方がいいと思う。</p>



発言者	発言内容
会長	手数料の用途については、ごみ収集やごみ減量化に関する市民サービスの向上に本来使われるべきであるため、その点を答申案に盛り込みたいと思う。